

年間行事予定

- ◎1月4日(金) 成道会(じょうどうえ) 釈尊がお悟りを開いた事に因んだ行事 ※塔婆供養のみ開催
- ◎1月5日(土) 懺法会(せんぼうえ) 観音さまに懺悔と安泰を祈願 ※小豆粥接待は中止
- ◎1月17日 初観音講
- ◎2月11日(祝日) 新福寺大般若 ※祈願申込書を配布、※バス参拝は中止
- ◎2月15日 涅槃会(ねはんえ) お釈迦さまのご命日、大涅槃図展覧
- ◎3月14日 春季巡教(しゅんきじゅんきょう) ※詳細未定
- ◎春分の日 お接待どなたでも参加できます 三川各地、お寺は観音堂にて開催
- ◎5月5日(祝日) 降誕会(ごうたんえ) 釈尊の誕生日 (☆山門にて甘茶接待) 未定
- ◎6月下旬 新亡供養(しんもうくよう) 本山妙心寺より直接ご案内がございません ※開催未定
- ◎8月1日~14日 お盆のお参り
- ◎8月16日(火) 山門大施餓鬼(さんもんだいせがき) (☆書院にて抹茶菓子接待) 未定
- ◎12月31日 除夜の鐘 23時半~1時
- ◎毎月17日 観音講
- ◎御講当番 海崎・宮前東2
- ◎第2第4水曜日、詠歌練習日(休会)
- ◎お寺で婚活 吉縁会は規模を縮小して再開しています
- ※年間行事は、未定、中止のものが含まれます。

祝米寿

数えて米寿(昭和10年生まれ、満87歳)をお迎えの方はお寺までお知らせください。大本山妙心寺の管長殿下よりご祝辞と記念品がまいります。

修理箇所報告

本堂・本玄関屋根瓦の修繕。伝道掲示板の移設改修。常夜灯の移設、及びIoT化。

殊勝某氏より本堂前提灯一對をご供養頂きました。

あとがき

狭心症、石灰沈着性腱炎、交差症候群、ぎっくり腰、各種災難。厄年が本当に有るか無いかはさておき、厄年と呼ぶに相応しかった丑年。私にとって、大厄にあたる今年がこの程度の災いで済み、あと一週間程で来年を迎えられそうな事を本当に有難く感じています。この紙面の入稿が間に合うかどうか。厄年ですので、何かありそうな気がするぞ、と苦笑いしております。

長勝寺報

ごあいさつ

本年もよろしく申し上げます。おかげをもちまして念願の山門が完成しました。庫裡の改修から山門改築まで約一年半。無事に終えられました事を心より感謝しますと共に、寺門の興隆に際して皆様と慶賀の念を同じくしております。ご支援を頂きました皆様に謹んで御礼申し上げます。

尚、今年中に本堂までの参道を改修する予定です。工事期間中、境内の往来がしにくくなります。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承下さい。

白黒はつきりつけることを良しとする考えは、Yes、Noの2つしかない西洋の二元的思想が影響していると聞いたことがあります。それに対して、日本を含む仏教圏では、多元的思想が主流なのだとか。メリット、デメリットがありますので、どちらの思想が優れているとは言い切れません。アンケートなどに見える「どちらでもない」という選択肢もひょっと

第13号 令和4(2022)年 新春

長勝寺 ホームページ



発行所

〒八七〇一〇一四二 大分市三川下二丁目六番二十三号 Tel〇九七五五八二八七 臨濟宗妙心寺派 長勝寺 E-mail tyosyoji.or@gmail.com

して日本独特なのでしょうか。 コロナが始まって2年が過ぎました。当初は内心、もつと深刻な事態を想像してました。幸いその悪い予想は外れましたが、その間世の中は、ご承知の通り是非、可否、優劣など、対立する考えが激しくぶつかる日々でした。

今年は、アフターコロナという言葉が出てくるのではないかと期待します。文字通りコロナ終息後の社会を指します。が、きつぱり、明日から普通の生活。とは、なりにくいですね。白とも黒ともつかない日々を経て、いつの間にか終わっているのでしょうか。これもご縁と想って「今ここ」を有難く過ごしたいと思えます。仏の世界は白も黒も越えた世界です。仏の眼は、白も黒も、どちらもそのままを観ておられます。仏教徒として、一度はそういう世界を味わいたいですね。無心の原体験から得た日々を、牛歩の如く着実に、時に虎の威の如く勇氣をもって過ごして参りたいものです。



祥月命日に合わせて、先々代、壽山和尚二十五回忌を執り行いました。お寺の法事は齋会(さいえ)と言って、厳粛な儀式です。お供え物は一つ一つお香を焚いてお供えし、七言絶句の漢詩を唱えた後に、お経をお唱えします。

壽山忌厳修す

住職の弟、宗祐禅士は、神戸 祥福寺専門道場での修行に一旦区切りをつけ、4月2日に当寺とご縁の深い、後藤康道和尚様の居られる国東 安国寺に入寺致しました。ここに到るまで皆様から頂きましたご法愛に感謝し、謹んでご報告申し上げます。

宗祐禅士、安国寺へ



榮龍子(えいりゅうし) 磬子。定期的に回転させることにより、叩くところが一カ所に集中しないようにしています。

目に見えない音とはいえ、仏さまやご先祖様にお供えするものですから、出来る限りの音を捧げたいです。荘厳な音色と、豊かな余韻を長く保つのが特徴です。

磬子とは、お経を唱える時に叩く鐘の正式名称です。ご家庭用のものは手のひらに乗る大きさですが、寺院用はかなり大型です。長勝寺本堂にある磬子は、榮龍子という銘がついており京都で作られました。溶かした金属を型に流し込む鑄造ではなく、一枚の黄銅板を木槌でコンコンと叩き延ばして成形するという、気の遠くなる製法で作られました。非常にゆつたりとしたうねりを伴い、

本堂の磬子(けいす) 榮龍子

シリーズ 長勝寺の室



新・山門が完成

檀信徒皆様のおかげさまで、このほど新しい山門が完成いたしました。衛藤建築、衛藤文秋棟梁渾身のご尽力により、新山門は伝統を尊びつつ、旧来の常識にとらわれない、禅仏教の建築様式を体現した建物となりました。

敷石は京都で何百年と使われてきた古材を手作業で敷き込みました。敷石にも真行草がありませんが、今回は真の敷石です。吉野産ヒノキの柱は、6本すべてに飛鳥時代の特徴で、中央部が膨らむ「胴張」を施し、視覚効果と強度を増しています。

上部架構には、旧来ありがちだった過度の装飾を排し、用の美を追求しました。彫刻に行きがちだった目線は木そのものに向け、通る人に禅的心境を与えます。垂木の間隔は従来より狭くして二軒とし、飛檐垂木には先端垂直面にも反りを入れました。木割(加工する際の割合)には数寄屋の要素が融合しています。組物は耐久性に優れたマキ。破風は優しい芳香のカヤ。懸魚には寺紋の算木が施されました。仏法僧の三宝を表し、当寺の山号、蔵亀山の亀の甲羅を連想させる六角形の胴張り太瓶束3本で棟を支えます。

瓦は耐久性に優れた三州。隙間が出来ないように、すべてグラインダーや砥石で丁寧な微調整(摺合わせ)を施しています。6枚ある鬼瓦は、旧山門の意匠を踏襲しました。熨斗にはわずかな隙間「透かし」を入れ、瓦の本場、奈良の伝統に従った葺き方で仕上がりました。袖壁は漆喰仕上げとし、上部に躍動感のある「波欄間」を据えて向い側が透けるようにしました。屋根には目板瓦を使用し、直線美が山門との対比を生みます。今後500年ほど、長勝寺の門として聳えませんが、未来を支える後世の方々に、禅を象徴する遺産として受け継がれてゆくことを嬉しく想像します。